

木もれ日 通信

Komorebi Tsushin

第57号

平成28年4月
つきだて花工房発
季刊誌

◎つきだて花工房は木もれ日のようなぬくもりと
やさしさを持ち続けるみなさまの公共施設を目指します。

「つきだて」かの山は
今年も一面朱色に染まる。



「山学校」が何だかわかるかたは、ある程度ご年配の方かと想像する。また、そういう方にとっては郷愁を感じる言葉かもしれない。

「山学校」は普通の学校を「自主」休業し、いわゆるサボって、山や野や川で遊んで過ごすことのような。その中では学校では得られない様々な楽しい、時に危険な、ドキドキするような体験があったのではないだろうか。福島県出身の漫画家・深谷かほるさんの「エデンの東北」という漫画にも山学校が描かれている。主人公の「おねえちゃん(さゆり)」が山学校をして山の中へ行き、炭焼きをする老人と触れ合うというエピソードが出てくる。学校ではまずあり得ない出会いとも言える。

新緑の里山を朱色に覆うヤマツツジは、そんな山学校に通う子供たちには馴染みの花だったのではないか。この花の付け根の部分には蜜があり、ほんのりとした甘さを味わうことができる(これはサルビアでも同様)。また、花そのものを食べることもできる。甘酸っぱい味はまさに野趣あふれるもので、山学校のおやつにもなつたに違いない。

ヤマツツジはツツジ科の半落葉低木で、このあたりでは山の新緑が少しずつ萌え出す、4月中下旬から5月上旬くらいにかけて朱色の花を咲かせる。花工房を取り囲む里山はこの時期、ヤマツツジに覆われる。年にもよるが、木々が葉を拡げる前から咲き始め、新緑が日々、色を変えていく、その色との対比が目を楽しませ

てくれる。

花工房の里山には散策路が整備されている。特に北側と南側の散策路ではヤマツツジが多い。この木の樹高は1m内外なので、散策しながら花をごく身近に楽しむことができる。天気の良い日など、ヤマツツジ、新緑、空と、それぞれの色の対比が言いようもなく美しく、時を忘れてしまうほどだ。

また、ヤマツツジは時に秋にも咲くことがある。10月頃、ごく少数だが花を咲かせる株がある。こんなに咲いたら、春咲かないのではないだろうか、と思ってしまうが、春になるとまたきちんと咲く。本来は春の四季咲きの花だが、春・秋の二季咲きと言いたいほどである。

以前、月館町在住の自然食料理研究家・よーこばばこと本田洋子さんがヤマツツジのジャムを作ってくれたことがある。色鮮やかなジャムはさわやかな酸味が印象的だった。なお、ツツジの中には有毒のものもあるので、種類を特定できない場合は口に入れないでほしい。



お客様ノオト

このノートはたくさんのお客様の笑顔と思い出が詰まった
つぎだて花工房の宝石箱です



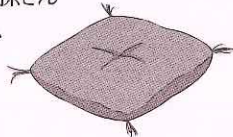
おおくま様 (伊達市月舘町)
5年ぶりにお集まりになられた同級生の皆さん。「おおくま」とは、中学校校歌の歌詞にあるそうです。恩師も交えて懐かしい話に花が咲いていました。3年後の再会を誓いました。



仲町どんと祭の皆様 (南相馬市)
南相馬市原町区仲町河川敷にて、歳神様をお見送りしながら無病息災や五穀豊穡を願う「どんと祭」がありました。その運営に携わった方々です。昔ながらの歳時を大切にしてくださいとの事。和気あいあいとお過ごしになりました。



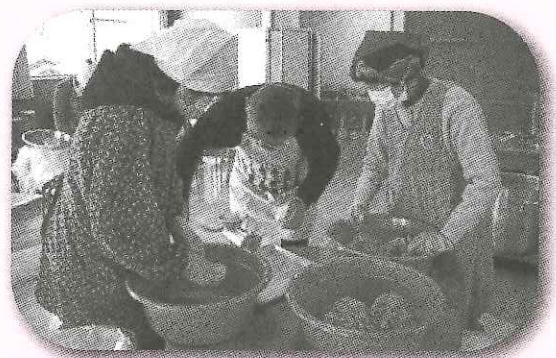
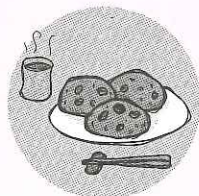
佐藤家の皆様 (伊達郡川俣町)
2月14日88歳のお誕生日を迎えられたタツ子様。ご家族で米寿のお祝いをされました。お孫さんから金の座布団、ちゃんちゃんこ、帽子をプレゼントされ、うれしそうに記念写真を撮っていました。



古川家様 (伊達市月舘町)
朝陽(あさひ)くんのお誕生日を両家でお祝いされました。カメラを向けるとポーズをとるしぐさが、とてもかわいらしく思えました。良く見ると袴はミッキーマウス柄でとてもおしゃれです。また遊びに来てくださいね。



グリーンツーリズム事業・温故知新のお彼岸行事
グリーン・ツーリズム事業で、3月19日にぼたもち作りと「昔話と紙芝居のつどい」が開催されました。ぼたもちの講師の高野さんから昔はこしあんだったことや、ぼたもちのいわれなどを聞きながら作りました。月舘の語り部・田代孝之さんの昔話、菅野さんご夫妻による下手渡藩についての紙芝居など、楽しいひとときでした。作ったぼたもちは最後にみんなでいただきました。



おらいの味噌仕込み
今年も味噌仕込みの季節になりました。「おらいの味噌仕込み体験」はリピーターのとても多い体験です。一度作ったらおいしくて、他の味噌が食べられないと、一年分の味噌を作られる方もいらっしゃいます。講師の菅野ミヨさんが作った糀で仕込んだ味噌は、一年間我慢熟成を待って、来年の今頃は黄金色の自慢の味噌になっているはず!



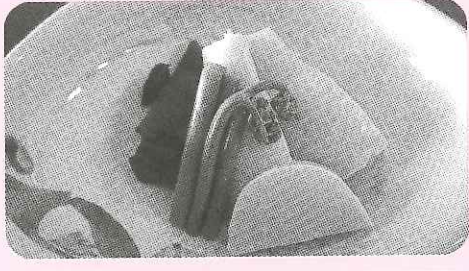
絵手紙教室 絵との会話、楽しんでみませんか? 夢中になれるひととき。
講師: 和田恵秀さん (切り絵作家) 参加費: 1,000円
開催日: 4/25、5/16、6/20、7/11 (全て月曜日) 開催時間: 10:00 ~ 12:00



「森林飽和」その言葉は、ある日インターネットを眺めていた時に目に入ってきた、頭から離れなくなりました。調べてみると書籍のタイトルのような田舎（しかも目的の書籍が店頭にあるかどうか分からない）では、ネットショッピングはとて助かります。

この本は東京大学名誉教授の太田猛彦氏によって書かれたもの。氏は森林水文学、砂防工学、森林環境学が専門です。内容をかいつまんで紹介します。東北太平洋岸の松林が三・一一の津波の威力を大きく減衰させたこと。その松林は人工林で、津波対策以外にも、飛砂害を防ぐために

季節の一品
若竹煮



材料 (4人分)

ゆで筍	50g	だし汁	500cc
ワカメ	適量	酒・塩・薄口醤油	適量
ゆでワラビ	40g		
木の芽	適量		

〈作り方〉

- ① 筍は縦に八等分、ワカメはざく切り、ワラビは4cmくらいに切りそろえる。
- ② だし汁に酒、塩、薄口醤油を入れ、筍を入れてしばらく煮る。
- ③ ②に切っておいたワカメとワラビを加え、軽く煮て味を調える。
- ④ 器に盛り付け、木の芽を添えて完成。

厨房のイチオシ!

彩りも鮮やかに、旬の食材を盛り込んだ春のお膳からおススメをご紹介します！
まず、鯨と切り干し大根の酢漬けです。切り干し大根という煮物のイメージが強いですが、今回は酢漬けにして食感と味を鯨とともに楽しんでいただきたいです。次に焼き物の伊達鶏の二味焼きです。伊達鶏のもも肉を串にさし、一つは柚子香る味噌で、もう一つは胡麻の風味豊かな味噌でお召上がりいただく一品です。また蓋物には豚つみれ春山蒸しをご用意しました。まだ雪残る山に春の日差しとともに芽吹く春の山をイメージした盛り付けとなっております。見た目にも味にも楽しんでいただけます。
春の華やぎを表現した今回のお膳をぜひ、ご賞味ください。

植えられたものであること。その砂は、山地でかつて多く発生した表層崩壊したものが川で運ばれたものであること。現在は砂防ダムが整備された結果、砂の供給が激減して海岸線が退行していること。また、山地の表層崩壊の原因が、森林の過剰利用の結果であり、山地のかかりの面積がまさに草一本生えないはげ山だったこと。それがほんの五〇年ほど前のことだった。

森林の過剰利用と聞くといふことを想像するでしょうか。建築材料？ パルプ？ はたまた割り箸？ それらもありますが、実は圧倒的に燃料として使われる量が多かったのです。石油資源に乏しい日本では、煮炊きするにも暖を取るにも、また、金属製品や陶器などの生産活動にも、燃料として木材を大量に消費する時代が長く続きました。その結

果として、かつての里山が文字通りのはげ山だったことは驚きでした。昨今、松枯れが深刻になっていきます。かつては落葉した松葉を燃料として利用していた、つまり、林床に落ち葉が無かった。それが生活様式の変化によって放置され、それが松にとつて環境悪化となっているとも言われます。

燃料が化石燃料や電気に移行するにつれ、森林は顧みられなくなり、現在ではかつて日本が経験したことのないような「森林飽和」の状態になっているようです。伐採されない杉が出す花粉が発端となる花粉症。居住地域に森林が迫り（耕作放棄も一因）、緩衝地帯が無くなった結果の野生動物による被害。

都市部への人口集中、そして、それ以外の地域の人口流出はいまだに止まりません。溢れ出す森の勢いを止めることが、人口の流出を緩めることにつながるのかもしれない。

新企画・新春招福のつどい

三味線、太鼓、笛。寄席のお囃子が花工房の大広間に流れたのは、これが初めてではないでしょうか。今年一月二十三日、「新春招福のつどい」アイルランド音楽と落語の遭遇で、落語家の三遊亭わん丈さんが登場したときのことでした。

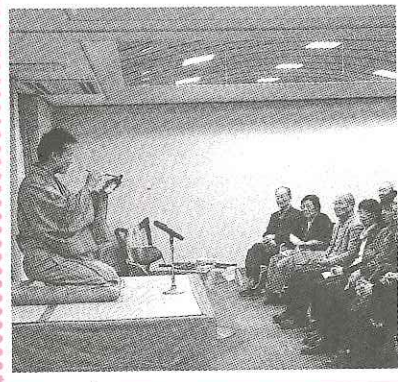
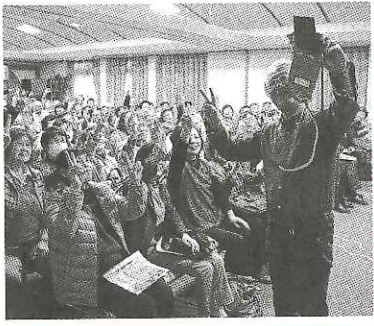


アイルランド音楽を奏でて下さったのは、「アニーバーサリーコンサート」でも2回登場いただいた守安功

地域の元氣応援講演会開催

元ラジオ福島の人気アナウンサー、大和田新さんを迎えた講演会を開催しました。現在、OA中の「永山久夫の百歳食入門」から、食による健康長寿の秘訣を、数え歌で披露。また、自ら取材した津波被災地域の状況を、写真を交えて熱く語ってくださいました。

最後には会場のお客様全員とセルフィー。充実の2時間でした。



かせるアイルリッシュハーブ。また、2本のスプーンをカスターネットのように奏でたり。お二人の演奏には異国の旋律なのになぜか懐かしいような、親しみやすさを覚えます。

そしてわん丈さんの落語は「牛ほめ」という古典が始まり、「動物園」という準古典(?)そして「蝦蟇の油」という古典(新しいアレンジでした)の漸で締めくくり。会場は笑いの中で、お客様のあいだに一体感が生まれたように感じました。

アンケートでも大変好評をいただき、今秋にも開催決定！ぜひお出かけ下さい。

日々の暮らしにハーブの香りを〜ハーブ教室・今後の予定
講師：瀧田 勉先生(ハーブとスローライフの研究者)
参加費：1,800円(材料費・税込)

5月30日(月) 「ハーブガーデニング応用編」2種類のハーブの寄せ植え茗玉
6月27日(月) 「ハーブクラフト」フレッシュラベンダークラフト
7月25日(月) 「ハーブクッキング」ハーブ&スパイスカレー、ピクルス

手作りクラフト展 第7回

モノ作りびとフェア

in つきだて花工房
5.28 5.29日
 10:00-16:00



- フアジーネーブルライブ (5/29 13:30~)
- もの作りワークショップ
- バルーンアート (無料)

会場 つきだて花工房 (雨天決行)
駐車場 月館運動場 (つきだて花工房向かい・無料)

主催 モノ作りびとフェア実行委員会
共催 一般社団法人つきだて振興公社 伊達市月館総合支所

後援 福島民報社 福島民友新聞社 テレビユー福島 福島テレビ 福島中央テレビ
 福島放送 ふくしまFM ラジオ福島 伊達市観光物産交流協会

5月28日・29日
 クラフト展開催!

今年も大勢のクラフト作家と珠玉のクラフト作品が花工房に集結! 第7回モノ作りびとフェア in つきだて花工房が開催されます。木工家具・小物、陶器、オリジナルの服といった定番の作品のほか、手作りアクセサリーや古布リサイクル、皮革工芸品も充実。作品を手がけた作家の皆さんとの会話もクラフト展ならではの魅力です。

また人気のジャズビッグバンド「フアジーネーブル」のライブやバルーンアートも開催。そして今回は、「将来のモノ作りびとを目指せ!」としての作りワークショップを開きます。竹ぼうくりづくりや段ボール工作など、もの作りに自ら参加してみませんか?

歩き回ってお腹がすいたら、地元の手作りグルメで腹ごしらえ。この日しか食べられない食も多数出展します。ポピーやバラといった初夏の花を楽しみながら、あなたの「とっておき」を探しに。たくさんの方のご来場をお待ちしております!

つきだて花工房 創立20周年

平成8年8月8日、当時の月館町は、月館の魅力を発信するグリーンツーリズムの拠点としてつきだて花工房を創立しました。今年はその20周年を迎えます。震災があった5年前には、一般社団法人つきだて振興公社が運営を受託して、新しい歴史を刻み始め、おかげさまで震災以前を上回る、多くのお客様のご利用を頂くまでになりました。

アニバーサリーイヤーとなる今年、皆さまに感謝の気持ちを込めて、様々な記念事業を展開します。特に7月31日には「森に還る」と題して、八ヶ岳で自然との共生を楽しむ、俳優・司会・ナレーターとして活躍している柳生博さんの講演会を予定しています。

そのほかにも謝恩プランなど、お得な企画も準備中。旬な情報はチラシ・ポスターの他、ホームページやフェイスブック、ページなどのSNSでも随時お知らせいたします。

お客様の声

●地区の老人会を連れて伺いました。初めての方々が沢山おり喜んでもらえ本当に良かったです。ただ私もお風呂を楽しみにしていたのですが、忙しくて入れず残念でした。今度は春の花のあふれている時にいきたいと思っています。

南相馬市 K・S様

●56号お客様の声に「父母が亡くなり故郷に泊まれる唯一の場所」とありました。私も同じ想いです。父は糠田、母は上手渡、私も月館で生まれ育ちました。皆さんに良くしてもらい、今後も利用させて頂きたいと思っています。

北海道 M・H様

●いつも運動をした後の汗を流し、マッサージで疲れを癒しています。心も体もリフレッシュされ、明日への活力が生まれます。ありがとうございます。

伊達郡川俣町 K・S様



木もれ日通信ではみなさまからのお問い合わせを随時募集しております。郵便またはメールでも受け付けております。ぜひお寄せ下さいませ。



木もれ日57号 プレゼント

●ご希望の方は官製はがきに住所氏名、電話番号、年齢と木もれ日通信57号で印象に残った記事および感想をご記入の上、プレゼント応募券を貼ってつきだて花工房までお送り下さい。平成28年6月30日の消印まで有効です。なお、ご記入頂いた個人情報につきましては花工房が責任を持って管理・保管し、当館のご案内をお送りするほか、サービス向上のために利用させて頂きます。

3名様プレゼント

木もれ日通信56号プレゼント当選者
 南相馬市 門馬忠昭様
 福島市 斎藤優子様
 福島市 古山勝子様

編集後記

震災、そして原発事故から五年。節目とも言える今年を境に、三月十一日が単なる記念日とならないことを切に願う。

一年でもっとも花のきれいな時期到来。私のおすすめは、5月初め頃、斜面一面朱色になるヤマツツジと新緑のコントラスト。お見逃しなく!

各地から桜だったり、きれいな花咲く映像が春を感じさせますが、花粉症の私には、鼻がムズムズ、複雑です。

庭の片すみから薫る沈下花。ふつ、と振り返り、春がきた幸せを実感します。芽吹き始めたたくさんのお花、どんな花がさぐくのか楽しみです。

〈幸〉
 5/22(日)
 6/20(月)
 7/20(水)

〈あか〉
 5/7(土)
 6/5(日)
 7/4(月)

〈厚子〉
 月の明かりで疲れた心を癒したい。
 いますぐカレンダーにチェック!!

木もれ日通信57号 読者プレゼント 応募券